

夢想兵衛胡蝶物語後編

貳

~13
3845
7



と。まほしてえせくも勅定よ入進とそれあり月かけど。今度のふ
と拂ひまじ。ちつとも如方へあけまじも。ふり不のちがさうぬとりのとも
らふ不理屈へ利分ごとろる當分の足搔不足ぬ難多でも。あつと
あひちも出されむ。貸し損する牙の破滅ぬまじ。同屋の居催促う一口
も片つねば。聖から荷か送るまぬ。愛あつじのあひやふ。必按さや
ま。とろり打痛入る三年の舊疾。さうくりのよけり。さうの馴深
甲斐もあ。劔と削る。款味方。人間萬事。掌をひくさや。あぬ。負債の
財三日積。と戸の常闇へ岩戸神樂も。あ跡の。祭りの。だ。茶汲で。あ
三里先。うら。伯父叔母。足弱連。まじ。膝とも。結合。五回正面と。四縮め。二
間の孫店外聞と。買人。さうぬ。賣居と。書る。土庫の腰巻も。落月と。憐
ひ人。あ。死。借。て。貸。さ。る。煩。惱。る。り。抑。さ。り。定。晦。日。村。子。物。さ。ひ。の。絶。さ。る。り。の。ハ。

奸慝して慾深く。人の懐を宛あて。牙上の機園と弄び。一床。濁。る。り。大
利と好きて。至極。浮雲。と。世。と。さ。る。の。綱。と。真。直。あ。ら。ぬ。も。あ。ら。ぬ。ま。じ。
務。ひ。と。い。ふ。の。と。年。中。絶。と。と。な。れ。た。あ。は。飲。食。も。奢。さ。む。と。洗。水。拵。山
あ。も。出。と。世。間。を。飾。さ。む。と。綺。羅。を。張。ら。ね。い。その。ま。じ。殊。あ。ら。ぬ。止。足。の
二。字。を。ま。じ。ぶ。れ。ば。物。も。ぐ。く。足。さ。り。あ。ら。ぬ。足。さ。る。ま。じ。煩。惱。ま。じ。一。年。の
計。の。元。日。から。せ。ね。ば。閨。あ。ら。ぬ。老。後。の。針。の。各。弱。い。と。死。は。あ。れ。と。ま。じ。さ。ら
迂。遠。の。と。て。明日。取。る。残。と。け。み。から。遣。へ。取。る。残。ハ。必。も。と。れ。と。ま。じ。あ。ら。ぬ
借。銭。を。さ。る。ま。じ。の。け。國。の。習。俗。と。ま。じ。と。張。契。が。宛。飲。と。い。ふ。聖。と。る。残。と
夏。の。日。の。青天。さ。う。お。と。が。ら。風。が。か。ら。ま。じ。宛。あ。ら。ぬ。い。ま。じ。入。ら。ぬ。と。ま。じ。と
と。れ。い。の。足。さ。る。と。ま。じ。と。あ。ら。ぬ。足。さ。る。と。ま。じ。と。あ。ら。ぬ。足。さ。る。と。ま。じ。と。あ。ら。ぬ
と。あ。ら。ぬ。足。さ。る。と。ま。じ。と。あ。ら。ぬ。足。さ。る。と。ま。じ。と。あ。ら。ぬ。足。さ。る。と。ま。じ。と。あ。ら。ぬ



かえりまの下のまひ
とねらじうへつらの
上へそののまひつら
まひのまひつら
まひのまひつら

お七(女)がまひつら
とねらじうへつら
まひのまひつら

のまひつら
まひつら



あつちまのまひつら
まひつら
まひつら

これまの
まひつら
まひつら

まひつら
まひつら

まひつら
まひつら
まひつら

まひつら

まひつら
まひつら

盈々といふに虧く。三里の城。七里の郷。こまをめぐつて攻めども勝て。彼四
方は敵をうけて。舟楫を以て。舟楫のり。の士卒の。一致して。兵糧を
からねば。あつるふ。土の風俗。家内の。ろろ。くみ。亭の軍配
ゆれ。さうね。又子夫婦。好嫌ひ。早く。早飯。三度。よ。り。て。六。食を
二度。食。みの。あり。活業。解り。て。碁。將。棋。あ。ん。ど。ふ。牙。を。く。り。の。中
あり。着。こ。さ。し。る。残。あり。て。も。西。方。の。雪。の。日。あ。り。出。ど。家。は。三。日。の。貯。銀
の。け。ま。ば。疾。病。とい。ふ。大。敵。よ。し。あ。ら。は。十。日。首。を。擡。ね。ば。妻。子。を
腮。と。釣。あげ。ら。し。活。城。と。れ。ど。も。援。兵。あ。り。子。を。賣。妻。と。賣。る。の。の。あり。
あ。れ。ど。も。牙。の。懈。の。あ。ら。う。り。も。あ。ら。は。ど。大。都。會。よ。住。り。び。て。懸。ぬ。の。間。を。下
の。と。り。牙。擡。ひ。み。述。懐。と。さ。る。有。理。と。す。く。も。あ。ら。は。泰。平。の。と。れ。よ。生。ま
あ。ひ。さ。牙。の。幸。の。努。め。の。ど。竟。舜。の。民。と。あ。り。て。柴。村。の。暴。虐。よ。達。す。

人進ぐれども家と失ひ。不養あるは妻と捨。不孝なるは子と賣ること。
人間の恥辱。このやある。かまは煩悩の外。うらま。りの。よ。あ。ら。は。五。陰
愚癡。智の。火。氣。よ。蒸。して。ぞ。く。と。生。く。胸。膈。の。熱。之。貧。富。の。天。り
配。刺。あ。り。仁。者。の。富。と。富。バ。仁。あ。ら。は。止。足。の。二。字。と。わ。り。の。へ。貧。く。て
煩悩。利。を。温。め。の。の。危。き。居。の。の。は。煩悩。多。し。譬。バ。店。は。百。金。の。貨
物。あり。て。化。小。百。金。の。貫。あり。も。その。貨。物。の。の。の。なら。ど。多。く。ハ。さ。を。こ
問。屋。の。負。債。多。く。百。金。の。古。借。あり。百。金。の。貫。と。り。て。二。百。金。の。負。債。を
遣。り。繰。る。人。の。撓。鼻。禪。さ。る。相。撲。も。一。番。足。が。流。ま。ると。輾。ご。つ。て。記。が。し
九。層。の。臺。も。土。う。り。と。て。飛。彈。の。甚。み。即。が。組。立。さ。る。七。重。九。重。の。塔。堂。で。も
地。形。と。う。く。せ。ね。ば。傾。き。易。し。百。板。の。松。も。下。小。傷。ま。す。その。未。上。は。橋。を。て
向。上。と。ん。松。樹。で。も。根。が。傷。ま。す。上。か。ら。橋。堅。固。い。身。上。と。の。の。の。ハ。九。重

煩悩御こそ浅くけまこと。後世兵備ハヤ
 一と。入る毎は洗りけりも。つが
 屈花よりあぬ。想思草の畑つら母あり。鼻の先てもあつらつと耳おち
 かけぬ大混乱。可惜口は風ひしと。十五六町行はる。宇絶洲といふ濱あり。
 美坂といふ坂あり。望絶洲に住む人の徳もかく才もあつて人の政よさら
 うなり。或ハ隣の家を数へく。寤るまぬ。隨よまざる。妄想胸よ浮き出
 とらちち。隣の金を照て。世の耳目を奪せんともふと死ハ忽地十千万両の
 金ありまじやう。西施でも小町でも。面と掩上端婦を數十人左右よ
 果し。脂ごころ肉屏よ。この冬の寒は忘まるとぞ。バ。た中硝子を
 逆さまよ。つるせいで死美人あつたり。或ハ一國一城の主よるりて。綾羅錦
 繡と裯と。背のりの食飽せんともふ。一國一城の主よるりて。綾羅錦
 武藝宇宙は数あり。投百年の壽命をたりちて。生るがら種よるとん

とぞ。バ。ぞ。種よも仏もなつらうと。宇絶洲の煩悩といふ。これ睡ぼて
 える愛く。あふさるりて。手も六絶ど。十両の肩上ハ百両よ。あふさるりて。あふ
 百両の肩上ハ百両よ。あふさるりて。男子をり。奉る家あり。女子をり。奉る
 宇あり。世帯のうのよかひぐ。女房とあり。と死ハ。ゆとつと美く
 ちとく。いふ。あふさるりて。病で挿り。亭主とあり。バ。ゆとつと優く
 ちとく。いふ。あふさるりて。班文の筆一本。あふさるりて。三歩の掃。あふさるりて。稿
 縮緬の袷。あふさるりて。額。あふさるりて。下。あふさるりて。糞張の煙管。あふさるりて。鼻
 紙袋。あふさるりて。母屋の葛。あふさるりて。出。あふさるりて。土庫の根。あふさるりて。宗
 首の因。あふさるりて。日。あふさるりて。網。あふさるりて。燈。あふさるりて。寄。あふさるりて。進。あふさるりて。皮。あふさるりて。女。あふさるりて。思。あふさるりて。生。あふさるりて。ろ。あふさるりて。の。あふさるりて。息。あふさるりて。子。あふさるりて。り。あふさるりて。バ。あふさるりて。支。あふさるりて。度。あふさるりて。ハ。あふさるりて。勿。あふさるりて。論。あふさるりて。持。あふさるりて。来。あふさるりて。あ。あふさるりて。ハ。あふさるりて。標。あふさるりて。致。あふさるりて。ゆ。あふさるりて。く

て両親の模様と見る婦とを授けんとす。老弱男女かのどい
 ずも絶ざる友と煩惱を。下男下女と使ひりぬ。二季の出りゆ煩
 行燈は心火の多い少い。竈の下の薪火の炭世草もど小鯛と込むを
 がもく。一年とみ尻が居と出せば損あり。出せば不自由。目送よりけり
 主人の煩惱。只情慾のやうこのさ。朝夕念仏と唱。口からこれ腹
 ころ。人あや又腹とせる。長洗系と事と火宅と情ぬ。ぬなよ。老ても火宅を
 脱とる。むじ。唐山の牛哀の生るが。虎となりて。その兄と喰ひ。この
 國の人。生るが。煩悩の犬となりて。先非と後よ。入るあり。美坂の人物中
 早絶洲。又似。よひて。聊も見識る。る。物毎よ。事と美と人のまのよ
 衣裳被とと。く。この女見。あ。あ。のど。被。せ。の。つ。美
 下女。令弱が。宿下り。と。是。居。記。よ。く。と。美。と。丁。雅。ハ。隱。居。の。昏。寐。と

美と。小。斬。ハ。主。官。の。病。牙。と。美。と。老人。ハ。頭。死。と。美。と。癩。人。ハ。黴。瘡。と。美。と。
 浮。気。る。女。見。ハ。花。女。と。美。と。浮。気。る。息。子。ハ。幫。間。と。美。と。和。尚。ハ。医。者。を
 美。と。下。戸。ハ。上。戸。と。美。と。井。戸。堀。ら。屋。根。草。と。美。と。ま。ま。と。焼。め。ら。や。や
 と。此。ハ。隣。の。獨。身。と。美。と。亭。主。の。懲。言。と。美。と。此。ハ。子。を。り。ぬ。嫁。婦。を
 美。と。日。照。の。傘。張。ハ。雪。踏。屋。と。美。と。冬。の。豆腐。屋。ハ。炭。焼。と。美。と。りの。と
 拾。ん。と。あ。つ。と。此。ハ。綾。鞋。と。美。と。物。を。認。ん。と。さ。つ。と。此。ハ。長。人。と。美。と。西。瓜。を
 食。ハ。と。此。ハ。反。齒。と。美。と。遠。眼。鏡。と。さ。つ。と。此。ハ。偏。月。と。美。と。碓。碯。と。此。ハ。跛。子
 と。美。と。雷。の。鳴。と。此。ハ。藪。と。美。と。齒。と。取。つ。と。此。ハ。鼻。齧。と。美。と。電。の。ま。つ。と
 と。さ。盲。人。と。美。と。こ。ろ。は。情。慾。の。赴。く。と。こ。ろ。と。さ。つ。と。こ。ろ。を。禁。り。ゆ。と。
 美。と。と。ま。け。し。ば。煩。悩。も。又。妻。と。法。師。が。ら。り。美。と。か。ら。ぬ。り。の。ハ。あ。は。と。人。の
 本。の。ち。の。折。の。や。ふ。さ。つ。と。ハ。兼。好。が。述。懐。る。り。現。も。美。と。死。り。の。ハ。

それと云ふものありて一言と惜むと志を勵く後と信と云ふは
 夫婦あやとおぼしめて男ハ七十のまのふんえ女の六十有餘るがうく是教
 たる布子の襟小肥て運了風を敗せ膝の敗とを漏る綿也。さういふはあんな
 風情ふてねよひと紅骨立。ゆゆ細れ巾の杖二重の腰小一重帯。うらめく
 足りとおぶるも互に扶け助らば何やうぶつくりひるから浪打障の歩
 う。めろともふ小石を拾ひて穀袂へ入さうば養兵渴こまをえん。
 ころたりのめなげなき情由多うよ身を投るあふよめあはじ年老て親の子由
 らく。飢渴又逼り老夫婦。捨身するふ疑ひる。隣むとく。とひゆあへ
 ぶ。背より遠く。さうが腰を引らぬ。幸余るがらめとこも小捨身する人
 と見ええ。プル、日本國よへなると果する長旅する。養兵渴とのみ
 めの。ともかくもしてさうが玉の緒ハ繋ぎとめあわらとど。まが緯の赴

と明白な志しもの。つうかくと信する。同とく。呆る老夫婦。まづその顔を
 うらむ。瞳子。日本人の何するも。此れをださるりのぞり。近曾の霖雨。北月
 門口がぬりまとも。砂砾と布より残る。本指ひよぎとく。け如う毎日
 まいふら。二十の小石を拾ひてりてゆり。背門足踏込。愚公が山とる世
 ごと。微塵積りていつとる。雨の降日由下駄の。生たるうら。自在な
 べ隣家の羅齋。櫛賣波女。さる我をねて羨む。の味ハ。食まめて。
 布あまる小石と。華王の色を切る人へ活らとらんと。随う老て大を
 り末を捨へど。波女と加勢ふけの。赤石を拾ひよす。りのと。身を
 投るるあやと。不身益千万大さる。お世話朝よ生まとく。文子死ぬると
 又蟻でも命を惜む。の。年老て貧しと。浮世よ信を。身を投る
 ら。世間よ人種ハ。ぬぐい。生ある。の。らひあり。さひの。バ煩悩あり。梅よ

蘇州の土俗後編卷二

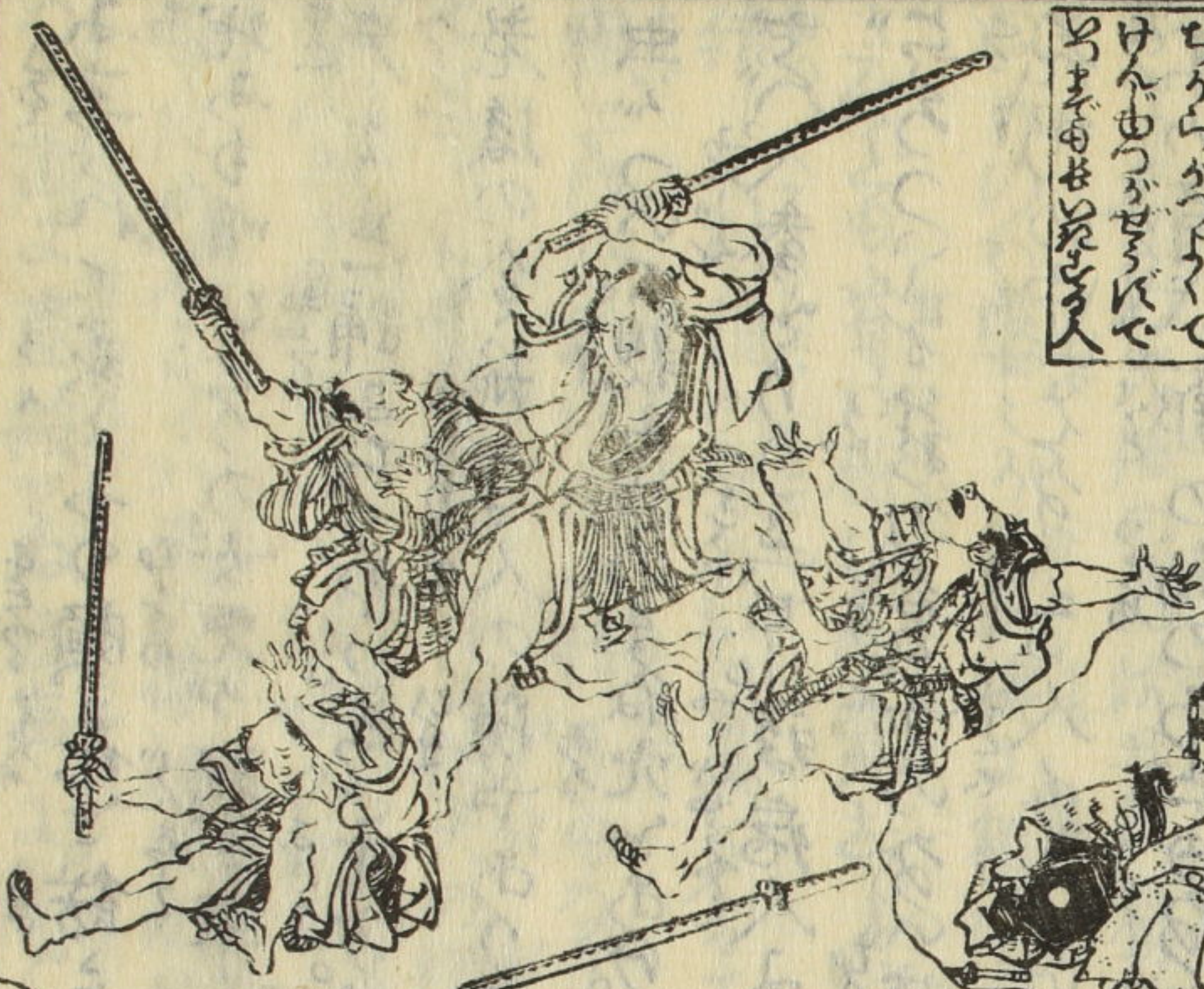
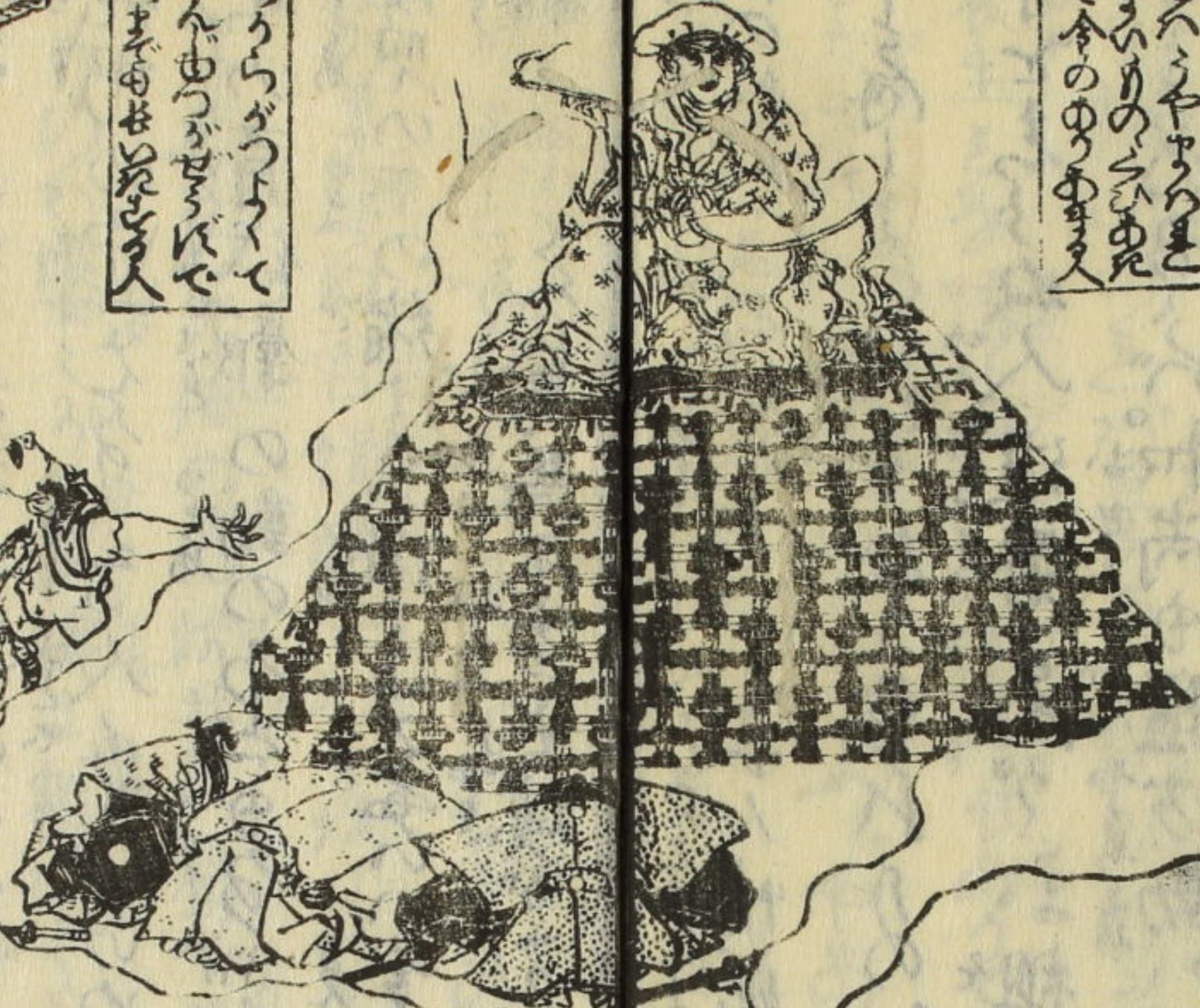
十

びんよあは
えつらひと

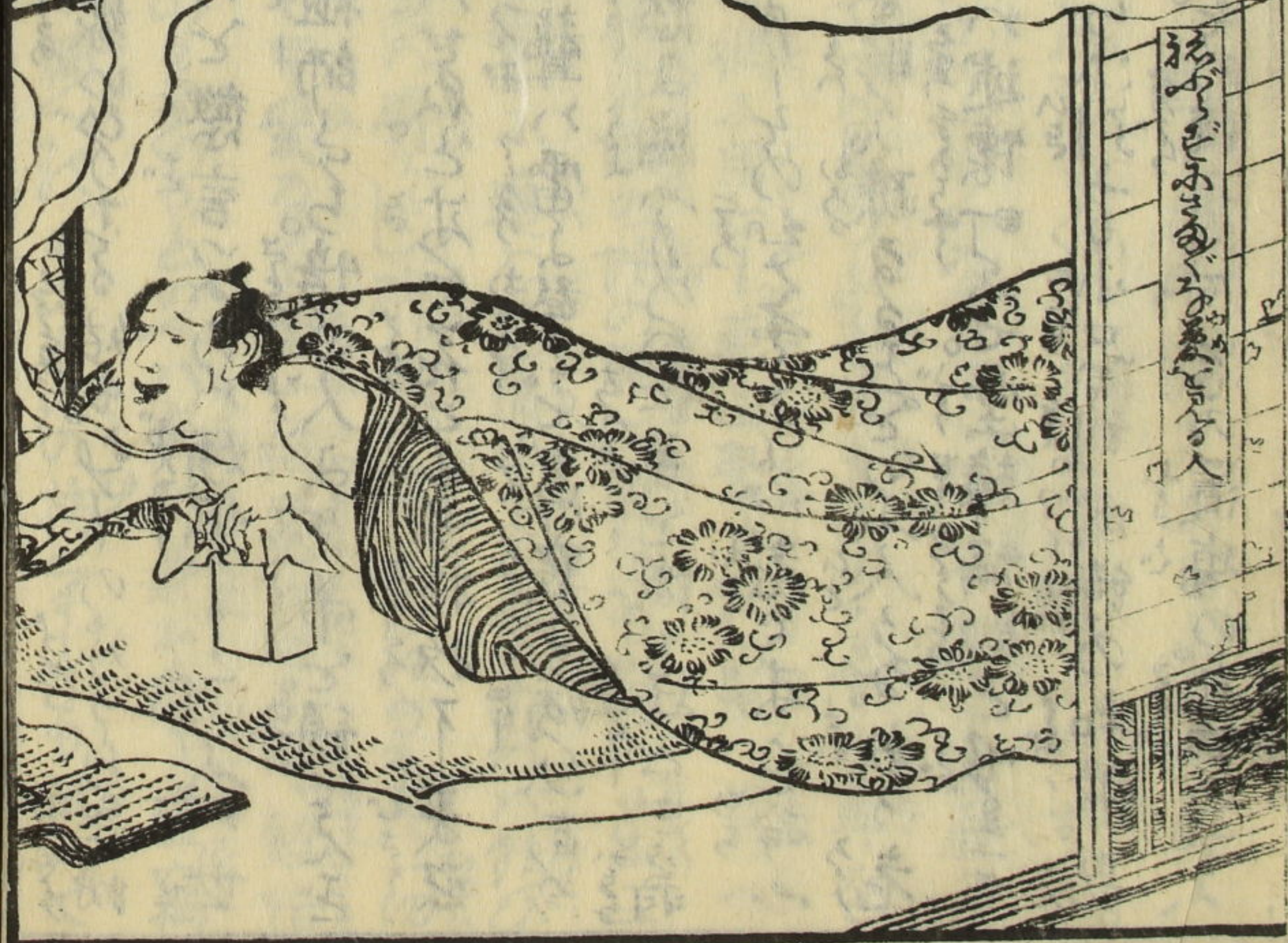


人あへんやうのま
らまのりのうあは
ちて今のゆうあま

ちうらがつうて
けんゆつがせいで
あまゆせうとま



あまゆせうとま



意馬心猿控

ふ怪

愚人獨坐放

情忙



い画のこけ
算七算八
の間にええ
ころ

ふきかして。家々も頗花と飴らせ。神棚奇麗小桐壺と光け。天の
 地も唯ひとり。の女児が顔色十人ある。小傍と幸ひ。豊後長
 声。うと踊り。下方。残と惜ま。とる。女児で。つと
 老後の令箱守人の隙やあり。堂樟樹の香の消ねど。つと女児は
 虫か。つて。親も。あまぬ。穴をあけ。疵のふし。と。透り。出。と。都。と。野
 せ。人。参。と。り。と。せ。疫病人。よ。異。る。穴。間。を。隙。が。な。と。欠。い。て。野
 ざ。ろ。つ。つ。る。花。の。名。子。の。あ。い。昔。と。締。め。よ。と。家。々。も。因果。の。ひ。合。て。
 花。街。の中。へ。と。り。参。り。人。ひ。ひ。ひ。ぬ。か。奴。の。悲。年。一。杯。よ。六。十。兩。八。十。六
 年。の。育。代。郭。の。勤。の。む。ど。も。る。も。屋。が。困。ど。と。ら。つ。と。往。生。と。と。と。
 女。児。の。玉。の。緒。と。り。消。よ。と。毎。の。合。夜。と。く。竟。暗。滅。ら。と。正。月。の。下。結。願
 麟。も。老。と。の。駕。馬。よ。参。り。焼。が。ま。ら。つ。と。懐。服。差。兄。弟。が。ん。の。代。人。の。ま。り

つ。子。と。呼。ま。し。奴。え。と。と。今。あ。の。ま。ふ。つ。つ。も。前。の。種。の。生。ぬ。衣
 頸。の。ま。ぬ。古。惜。残。と。お。そ。ろ。い。と。と。の。子。ど。よ。う。年。浪。の。暴。風。ふ。ひ
 か。ま。ら。ぬ。老。後。の。浮。沈。昔。の。扇。を。風。と。ら。う。今。の。あ。つ。つ。息。と。と。と。
 ぬ。り。の。へ。婆。々。が。名。の。腕。よ。難。び。ど。わ。る。む。ら。と。と。朽。と。と。あ。る。ち。後。の
 と。と。も。脊。の。屈。む。商。賣。と。と。本。後。も。り。婆。も。ひ。つ。の。鏡。又。日。髪
 結。と。針。箱。の。床。の。お。た。り。の。え。る。と。と。人。は。絶。と。と。一。つ。の。か。ひ。小。糸。と
 徹。と。た。バ。化。洗。濯。の。掙。り。由。る。と。と。情。と。ぬ。衣。よ。香。の。牙。の。あ。よ。と。と
 ち。と。その。日。と。送。ま。か。う。凡。夫。の。煩。悩。も。と。と。天。の。あ。と。と。と。お。ん。身
 ろ。ん。ど。が。附。焼。又。で。煩。悩。の。根。が。切。と。と。と。款。意。悲。音。根。と。と。と。の。あ。ち
 辛。死。め。ん。と。と。天。の。依。佑。虫。同。根。の。吾。們。よ。と。と。と。務。也。も。あ。つ。ら。ら。ば。中
 ち。と。齒。よ。莖。被。せ。ぬ。譁。声。よ。高。く。と。と。と。老夫。婦。秋。と。と。と。あ。つ。け。合。ち

といふもあつた鶴養石木魚ももつたひびき。お辨系ももせぬ述懐のよ
 えせりのところろ可笑しく。爰お兵衛の声を激し。むじ唐士そんぢよ
 楚國よ辨と疳と賣るりののり。辨と買んとりりののよ。この辨の
 税とて獄の疳も徹るといふ。又疳と買んとりば。その疳をりて款を防げ
 ば莫耶か細も徹とてといふ。のり人受ててを結り。りおぬが辨をりて
 おぬが疳を徹とていふ。いふと聞くと。いふはさうらうりつり。面
 と報くせーとや。さうればちん才が述懐ハ辨と疳とを賣ふ似る。人を救ふ
 ハ何よそれのうらぶさよあなれども。辨付が悪を助けて。忠臣のうとそふがて。
 不孝不義の白物を救りんハ。救りぬよ。かてとあり。骨肉の親と恩愛の情
 又子ふたりのやある。さうらふその子不孝みて又の教よ。さうかかて。こと
 とは。骨肉の愛と捨てて。追入のまが。懲えん為るうとも。一々の家

宿ともいふこと。一碗の飢あも苦しませ。ものが家へ入して。快く
 ことを養ひ。うらちやうて。おま。偏屈な。親又い見よ。さうれば。とて。世間
 月へ照る。うら。一休親の雪隠をうら。屎とひ。人間ハ何よ。つひても。先か
 ころぬ弱いと死は道流とさるも。又身の一泊。や。と。その子ふら。ら。さ。つ。け
 るゆ。賊る。弱よ。油と沃。その。標と改ん。と。い。と。ま。ま。と。く。悪。み。み。ま。が
 来て。一年。居。食。ひ。は。艱。且。親。か。損。う。けて。欠。落。さ。る。も。往。と。ある。もの。その
 と。死。い。つ。憤。り。彼。畜。生。ハ。思。ま。さ。ば。か。の。一。の。里。へ。足。踏。込。ま。骨。を。推。ぐ
 腸と冷んとする人毎又罵アて。苦て。煩惱の鹿。采と添え。胸の煙の絶間
 る。死。と。ころ。と。て。へ。了。簡。ら。び。ひ。その。親。よ。ま。孝。由。る。く。信。由。る。死。白。徒
 の。悪。を。助。け。く。その。思。惠。又。濟。ら。ん。と。ま。ふ。と。も。い。を。思。養。を。感。じ。ん。と。こ。の
 な。よ。義。へ。の。消。滅。を。救。ひ。給。さ。く。も。独。り。さ。る。み。至。り。て。遂。よ。ん。く。ま。の。の。死

蘇我史補卷二

廿

のり。かる。徒と赦人と赦りぬ。みかほ。この道理と曉りぬ。良人は暇
 なく。密夫と奔り。或は主の女兒を竊出。糸を埋る。せり。入。て。主は
 追。犯。良人。小。通。り。か。り。が。強。俠。小。ま。り。し。て。理。の。く。こ。を。と。夫。婦。と。こ。を
 る。死。吾。根。と。う。と。あ。み。の。前。よ。み。不。孝。殘。忍。の。徒。を。助。る。小。ま。り。あ。る。い。
 り。その。思。義。と。ある。と。あ。く。ハ。隙。隙。と。積。牆。を。踰。夫。と。捨。子。と。捨。く。未
 覚。つ。つ。ろ。の。死。人。と。い。ま。く。じ。き。情。の。賢。不。肖。よ。う。く。比。と。も。文。君。が。相。如。よ
 毒。り。政。子。が。武。衛。小。奔。ま。る。奴。め。て。世。の。奸。夫。淫。婦。ハ。論。が。く。され。ば。ま
 ん。身。が。女。兒。は。糸。牛。の。控。養。と。る。と。う。く。金。銭。を。費。し。淫。を。賣。せ。ん。と。て。身
 の。利。を。謀。り。ハ。その。子。は。淫。奔。を。教。え。る。ろ。う。ろ。う。と。の。ハ。豔。曲。野。声。ハ。不。孝。不。義
 の。媒。灼。と。る。り。犯。と。親。り。ハ。父。の。心。で。密。夫。と。共。ま。き。と。し。度。中。引。戻。罪。を
 論。く。こ。を。と。賣。り。ハ。陷。阱。を。陥。設。て。是。の。子。を。墮。せ。し。加。以。身。價。の。受。

せ。論。は。て。十六。年。の。養。育。代。と。稱。と。る。と。不。仁。の。至。り。不。慈。の。至。り。人。倫。の。上
 ぶ。論。は。と。う。も。あ。ら。ば。その。子。の。淫。乱。不。孝。の。は。う。ら。敷。く。へ。さ。る。の。れ。ど。も。教。ふ
 志。さ。ら。ば。い。ま。棄。る。の。外。は。こ。を。と。棄。て。顧。む。る。也。又。秋。の。慈。悲。の。ふ。子。の。不。孝
 淫。奔。と。幸。し。これ。を。賣。て。利。と。と。ら。ば。その。子。の。不。孝。と。秋。の。不。慈。と。天。秤。よ。か。け。く
 是。よ。こ。え。て。怪。重。の。ろ。う。ろ。う。の。聖。王。の。民。の。罪。と。り。て。こ。を。と。こ。小。奴。德。を。脩。め
 る。ハ。か。の。多。く。刑。罰。年。と。小。寛。る。れ。ど。も。その。國。治。り。て。悪。民。の。後。の。乱。王。ハ。ま。る。く。は
 身。の。情。と。も。民。不。悔。く。犯。一。練。の。の。を。報。刑。罰。を。重。く。と。れ。ど。も。日。小。月。は。賊。民
 起。り。て。その。國。上。び。さ。る。の。は。且。君。子。恨。む。の。道。を。改。め。小。人。恨。む。の。道。を。修。る。君
 子。の。子。を。遠。く。何。ぞ。や。勢。ひ。勢。は。た。れ。ば。こ。を。教。と。師。の。嚴。う。ら。さ。る。ハ。こ。れ。その。子
 と。捨。る。こ。か。る。せ。多。く。理。義。よ。明。る。の。の。ハ。ま。づ。罪。を。お。の。し。小。奴。の。その。家。の。理。を
 ざる。ハ。主。の。不。徳。の。の。その。子。の。不。肖。の。の。又。の。不。徳。の。の。人。の。賢。不。肖。ハ。天。性。よ

狐とて。あつれともいふへの大人君子。その子み悪るるのあまど不孝の子分
 ろれとめて教ふるをさふべし。親年未使気せりて人の不孝不養を助
 けが子の不孝を殊文に責て情るるも責るがごとく、辨と盾とを鬪ふ
 あまどや。罪あるめのの他への他への他への怪を告告る所
 大告に狐とれとも身臭悪いゆよく臭い。力猛く。勢ひ別るるのの人の
 剛勢よおそれるるののあまど。あつれとも。一旦勢ひ場力究。どれハ亦これ
 と怖るるののは。虎狼のいと猛きも。飢て勢ひ究るどれハ。捕夫よ生拘らる。
 既よその四足と縛られ。その牙と缺るどれと。人群立てこそとをさる東
 方朔が言よこそと用るとれハ虎とるり。用ひざれば氣とるるといひん。
 榮枯は失の理りと時を不足する。この理をさるどれハ。おん身がどれ煩悩ハ
 るたて人の子の不孝るるも。その怪を改んといふ。疑の為よこれを勧解る。

一。その子の悪を助けてこそとを諷入のり。かばうらまはさる。理をさるも時
 ころ胸の煙のま覆ひ迷ひの雲の深く。おの月を隠せば。夫月へ親る
 ことを飲び耳へ聴ことを飲び。鼻の顛とと飲び。口へ食ふことを飲び。身へ使ふ
 ると飲び。足へ走ることを飲ぶ。目とせりて人さるとよれども。色よむへの必る。
 耳へ聴とよれども。声あまど。かろく。聴。鼻よ顛とよれども。香あれハ
 ろるど。顛口へ食ふとよれど。飢まば。ろのど。食ふ。身と使へ。よれども
 ども。動けば。ろのど。使へ。足と走。目とよれど。まば。かろく。まは。ま。あ。れ。ども
 ひとのまされば。人さるも。認え。ど。聴え。ど。食へ。ど。味。ひ。と。ろ。の。の
 舞足の端とろをまむ。ば。おの。實。よ。六。骸。の。ま。あ。て。人。間。の。安。危。直。了。係。の。
 一。く。明。あ。り。て。且。慎。ど。の。あ。る。ぶ。く。む。あ。る。ふ。人。我。情。態。の。為。ふ。その。ゆ。成。ほ。え
 て。一。生。を。悟。ら。せ。執。り。ま。と。悲。し。ま。ざ。ん。と。正。しく。理。教。ふ。明。ら。る。と。れ。ハ。私。ほ。

煩悩の火を滅えんとするは、伯禽ハ周公曰乃
おん子あり。魯國を治むるは、周公の命を承りてこれに教て
 利を利せざればと宣ひし。利を利せざれば民を利せざれば、おのが利を
去らざるは、君子ハ人を利し。小人ハ己を利す。己を利するが故に人
とせざれば、この由多し煩悩多し。ひいて楚國あり。弓と遺せしめ、
 けり。あるまじくも、を索せむ。ある人その名を問ふれば、楚
國の人あり。楚國の人を名を捨らん。又何ぞ惜まんといひ。孔子これ
を傳へて、楚國の楚の字を去るべし。可と宣ひし。又、
ハ楚國の人の遺し。弓と楚國の人ハ捨らん。とあり。ハ、
私と晚まど人といへ捨らん。といふは、いふく、いふく、
老子も言ふと、人といふ字を去るべし。可と宣ひし。

この人ハ拾せんといふは、私の事ハ何ぞ。拾ふは、拾ふは、
と、といふあり。言を利を利せざるといふべし。人おのく、さきと死ハ
愚ろく。長るるハおびて、智あるまじくといふあり。智あるを、
私せば、女さ、死の愚ハ、私さ、晋の平公ハ大國の君あり。その
臣祁黄羊といふハ、平公の命を承りて、南陽といふ邑ハ、誰を
言ふは、任ぶべし。と問はせし。祁黄羊答て、解狐といふハ、
と、言ふ。平公眉根うち、解狐ハ子ガ怒あるハ、
む。と、解狐の命を承りて、君今南陽の命を問はせし。と、
うけの、且臣が怒あるハ、と、問ひし。答へて、平
公答て、解狐を用ひし。かて亦平公祁黄羊又問はせし。
か。誰ガ國ハ、尉と、と、誰を用ひて可らんと問はせし。



待正るりて情を失ひざるもの。譬は大海の物を結とるけしむも。兩
 亦も塵芥也。穢流も百川也。まなこまよぬざるがじ。且これを容れて漏
 らざるも。漏らざるも溢るるで。彼を到るとするもの。亦賢人の弊を
 異るる也。その情を失ふとよども。結とるりて。結とるりとも。まらうら求めん
 う。煩惱を漏らさざるも。溢るる正る。譬は酒を節と上戸といふ
 りのよ似る。容るる知分量ふらりあねども。底は穴ありて。数百杓乃
 酒と容る。うとまを漏らし。溢るるもの。凡人婦女子に至る。平
 絶洲美坂の人のいづくも。正とて。情を失ふと女とて。必は草の袋
 小物を入さる。口と締るかじ。物もまを正と入さる。出さる。漏らば。溢るる
 も多し。煩惱とる。煩惱は人慾の難病なり。奸悪をりて。生地より。喪は
 る。煩惱の劇病。良医神薬ありといふも。竟は救ひがたの症。一朝

の怒りよ。その身を怪ハ。煩惱の癩病。且三減の警言と慎んで。人と罵
 ハ。煩惱の激言あり。ま情も惹き。路は死人とよハ。煩惱の大熱なり。
 ゆ多し。俗人の男女の恋憐し。餘るで。顧るると。のせるとも。あつるるとも
 り。止足のよし。きね。ま。其く。貪り。終は禍を。醸するハ。煩惱乃
 脾腎虚る。ま。と。煩惱の四病といハ。病のまらる。生じ。養生も
 又。まらる。成る。夫湯をり。その沸と止んとする。と。その沸とよく
 止む。慾をりて。煩惱を止んとする。と。たハ。煩惱も。止む。と。まらる。つて。
 医者ハ。茶劑をりて。病と逐ハ。除く。りの。まらる。の。人。こと。と。賤極と
 きて。中。免る。療治ハ。末あり。艱生ハ。本。入。その。本。を。捨て。只。その。末
 と。求む。神医ありといふ。も。妖。多。仙丹ありといふ。も。病人。多。入。人
 その。艱生を好む。まらる。も。ん。身。も。を。その。本。より。りて。七十年の非を。まらる。

ある牧夫水のゆく高き崖に必とまらうて左右へもれ低ればかゝるらば
 おちりてその上へ登るのて人情のまうらば登らんと思ひ
 低き崖に必とまらうて鳥獲の足力の人あり。奔る牛の尾をひき
 せしふ牛の勢ひるる止まばその尾をひきさらうて止めず。情慾の
 禁がたれた奔る牛と鳥獲の如し。相挑むと甚くして天原の性より
 情の種を禍と急て牛の尾を断り是るるも奔牛の情慾を止む。
 鳥獲は法度とかるるを聖人の情と失ふと慾を禁めよく礼節をま
 りの之。且水の字はよ歩り。低き崖に就ハ水の性なり。聖人その情を失ひ
 のはさるるを聖人へ。人生まうて善よ進み少く悪よ進むの。まを論ん
 ぬ。童子ホガサの管りて吹く。シヤボこといふりのまよ近し故にふ
 とるまば。その泡の管より出て假は珠とあるとままば。まを圓とれ人

ふ登れば本然の善之。既よその管とるるま風よ隨て飛揚するを
 えまば。さめぐの形とるる。まうまども。始終真よ圓と稀るる。まよ
 進むりの稀るるも。又かの正。ま情慾の風よ誘引ま。天原乃
 性と失ふよあまびや。その圓まも方るるも。ゆがめるも直まも。よれも
 あれもまづがねま。同のまうて消るるま。りうくシヤボンを
 るる人のま。蒸航の鏡と解ま。煩惱の泥海と漕るるま。彼
 者へ到らん。実よ疑ひるといふん欬。

